

札幌市長 秋元克広 様

1000 億円もの税金を投入する 都心アクセス道路の建設中止を求めます

札幌市は、都心へのアクセス強化が必要だとして、創成川通の札幌新道～北3条通りの約4 km 間を、地下トンネルまたは高架構造による高規格道路の建設か、右折レーンの設置など交差点改良を行う3案を計画しています。

有力視される地下トンネルの場合、建設費は1,040億円（市負担約200億円）に上ることが明らかになりましたが、これには札幌道との接続部分の工事費は含まれておらず、地下埋設物の有無など、建設費はさらに増大することになります。

札幌市は、「都心とのアクセスに課題」「冬期積雪時の速度低下が著しい」といいますが、市の調査でも創成川通（北32西2）の混雑度は最低ランクであり、新たな道路建設は不要です。また、「冬期積雪時の速度低下」は、創成川通に限らず市内すべての道路の大問題であり、迅速な除排雪の実施こそ求められています。

国と道、札幌市の3者による「札幌都心アクセス道路検討会」が行われ、実施に向けた検討がすすめられていますが、市民からは「わずか10分の短縮に1000億円もの血税を投じる必要があるのか」との疑問が広がっています。大切な税金は、暮らしと福祉の充実にこそ最優先で使うべきです。

創成川通は、右折待ちによる混雑の緩和が求められていますが、これは右折専用レーンの設置など交差点改良で対応可能です。国も札幌市も莫大な借金を抱え、人口減少社会の到来や若者のクルマ離れ、高齢者の免許早期返納など自動車が減少する時代を迎えるなか、必要性が極めて乏しい道路建設に莫大な税金を投じるなど許されません。

都心アクセス道路の建設を中止するよう求めます。

氏名	住所

取り扱い団体（）